

## 第二回 花園・島崎地区浸水対策施設技術検証委員会

### 審 議 結 果

- 日時 令和元年12月24日（火） 13:30～
- 場所 熊本市上下水道局 3階 災害対策室
- 出席委員 4名  
楠田哲也（委員長）、皆川朋子、高村和典、竹田尚史

#### ●審議結果

##### <浸水原因について>

- ・平成27年7月1日は、排水ポンプの運転開始水位が高かったこと、小山田川からのバイパス管への分水機能が十分でなかったこと等が原因で浸水が発生した
- ・計画降雨によるシミュレーション結果から、上記2点に加え、麴川の水位上昇に伴う麴川流域から小山田川への雨水逆流も浸水を引き起こす原因となっていることが判明した

##### <対策方針について>

- ・現計画に対するこれまでの対策も一定の効果を発揮しているものの計画降雨に対応するには更なる改善が必要である
- ・これまでの対策に加え、今後は分水率を向上させるための施設の改良及び麴川流域からの逆流対策を行うことで浸水被害の軽減が期待できる

##### <その他審議結果に関する主な意見>

- ・今回検証データから、上流部山地の保水機能によって流出率が低下し、下流側の被害軽減に重要な役割を担っていることが明らかとなったことから、土地利用の変更に留意する必要がある
- ・今回の検証結果を踏まえて具体的な対策を行うことにより、計画降雨に対するハード面での対応は可能とされているが、超過降雨への対応などソフト面での対策についても検討しておく必要がある
- ・今後の気象の変化が予想されることを踏まえ、減災のために必要な水理・水文データの集積に努める必要がある
- ・今回検証に用いた流量等の数値はあくまでもH30年の観測結果を用いたシミュレーションによる数値であり、具体的な対策施設の設計値ではないことに留意すること